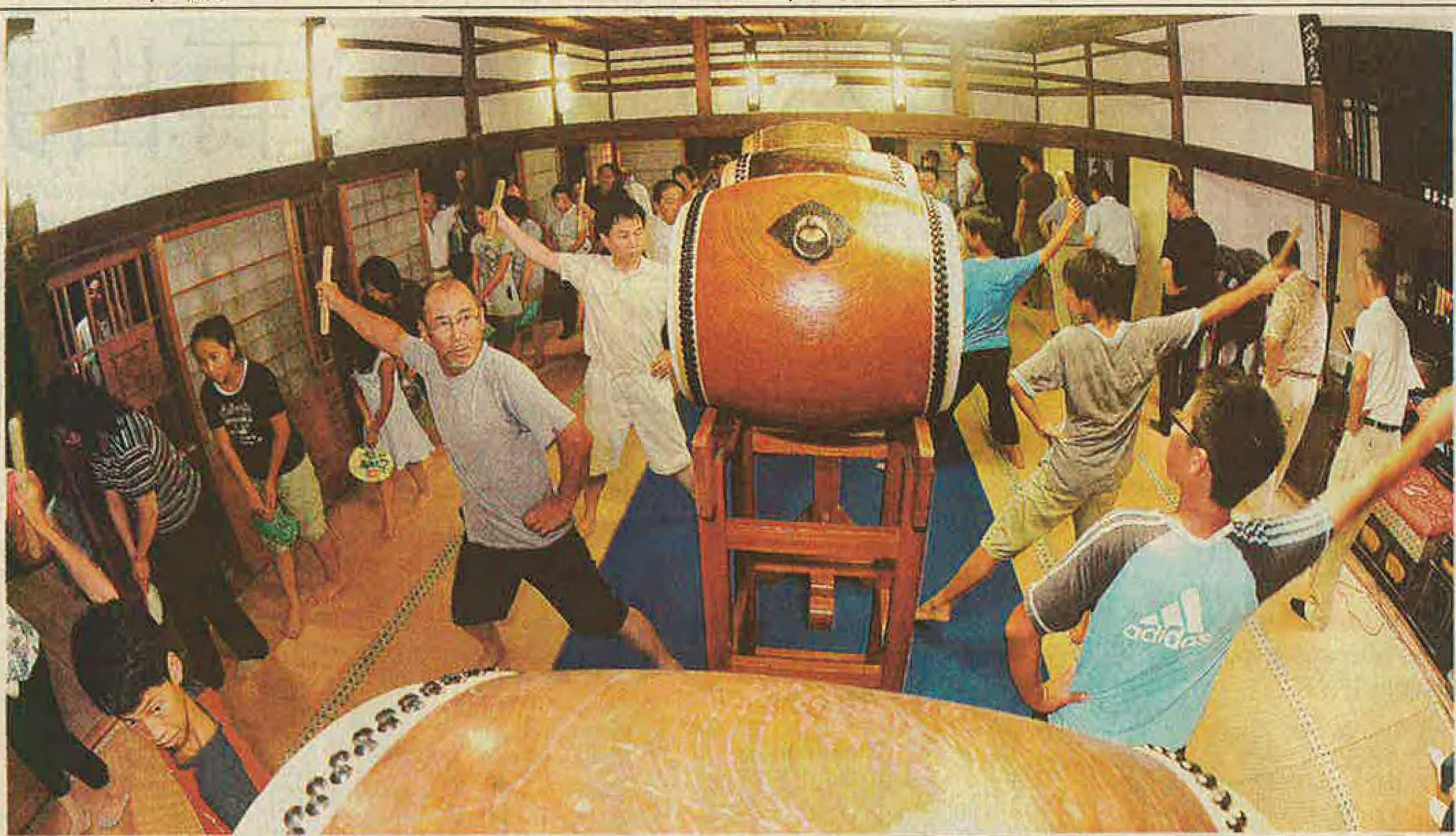


太鼓の音頭に合わせて、題目踊りの練習に励む松ヶ崎の人たち（7日午後8時15分、京都市左京区・涌泉寺） 撮影・辰巳直史



灯受け継ぐ ② 五山送り火

「妙」「法」をともす
万灯籠山と大黒天山の近くに、京都市左京区の涌泉寺がある。

暑さが和らいだ夜、題目踊りの練習が本堂で行われた。男女が交互に「南無妙法蓮華経」などと音頭を取り、太鼓の音が響く中、100人も老若男女が無言で踊る。うつむき加減で進み、扇子を優雅に回す。15、16両日の夜、境内で踊る。

松ヶ崎妙法保存会理事

題目踊り 地域で連綿と



妙法

末期、村人が法華宗に改宗した喜びを表現したと伝えられる。天文法華の乱（1536年）で、比叡山に村が焼き打ちされたも、信仰は固く守られた。

北野正彦会長（67）は「ここで生まれ育った人は受け継ぐのが当たり前。同じことの繰り返しでもエネルギーを要する。それでも毎年地域の人が集まる」と語る。言葉通り、練習は活気に満ちていた。

踊りの起源は鎌倉時代